

# 100周年記念式典を開催

## 「ひとのやらないもの」変えず

### 山口ナット 高度化と多様市場へ

株式会社山口ナット(埼玉工場)埼玉県久喜市、山口誠一社長)は11月16日、ホテルイースト21東京(東京都江東区)にて創立100周年記念式典を開催した。式典には社員や来賓らが出席し、「世紀に及ぶ同社の長い歴史を振り返りながら、「ひとのやらないものを作る」という変わらない理念のもと、山口社長が今後の展望を示す場となった。

同社は1924年、初代社長である山口小多氏が29歳で創業。ロクロ職人の技術を活かして真鍮切削ナットの製造に注力した。戦中には東京大空襲で工場が被災するも復興を遂げ、基盤を築いた。

1976年、二代目社長に就任した山口昌利氏が製造工法を切削から圧造へと転換。1988年には埼玉工場を開設してその後拡張を進めた。当時、先進的な機械の導入や加工機等の内製化を進めることに、インサー

トナットを主力製品にまで成長させるなど、標準品から特殊品へのシフトを加速させた。

2005年には現社長の山口誠一氏が三代目として就任。本主に金型工場を開設し、2014年にはフィンランド工場を開設。グローバル化を推進して、現在は製品の高度化と市場の多様化を進めている。

山口社長は挨拶の中で、創業から変わらず保持してきた理念ともいえる「ひとのやらないものを作る」を改めて強調し

た。同社長が長年にわたる希少性を追求してきた点に触れ、「同じ仕様の機械や材料で競い合えば、価格だけの勝負になってしまふ」とし、改造フォ

ーマーや自社製タップ機・検査機、トランスファ一困難形状の2D3B化、金型設計と内製化などの独自技術が生き残る強みになってきたことを振り返った。

また、今直面している



式典を終えて出席者ら

地政学的リスクにも対応する必要性も訴えた。これからの100年に向けた方針として、技術開発の継続、技術者の育成、ITやAIロボットの活用した生産性向上を推進する考えを示した。また、全切削加工や研磨加工、プレス加工を新たに取り入れて市場の多様化を進めると強調した。

最後に、「希少性の追求を維持し、新規開発への力を緩めず、ゆでガエール」とならないように努力を続けることが当社の根幹である」と述べた。

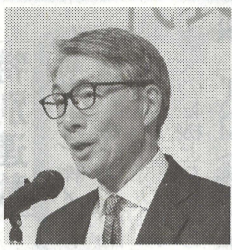
式典では「100年の歩み」と題した記念映像が上映され、この中で山口社長は「ものづくりの原理原則を学び直し、次世代へと伝える努力が必要」と述べた。

また、山口昌利会長は挨拶の中で、創業者である父・小多氏の思い出を振り返るとともに、米国視察でナットフォーマーを初めて見た際のエピソードや、「この人達がいなければここまでできなかった」と経営者として助けられた業界の先輩らへの感謝の意を述べた。

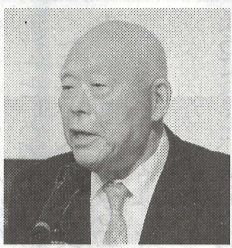
さらに、「何と言っても女房のおかげ」と同席する家族への感謝も語り花束贈呈の一環もあった。来賓挨拶では、材料供給で協力した元高崎金

属社長の高崎良造氏や、井広道顧問が「山口ナットは永久に不滅です!」と述べ、式典は締めくくられた。

山口誠一社長



山口昌利会長



記念式典のようす